



営農NEWS



露地ナス栽培で各種病害の発生に注意しましょう

本県のナス栽培は、一部に施設を利用した周年栽培もありますが、主体は露地栽培です。

生育が順調に進み、枝葉が込み合ってきた時期に、天候の不安定（曇雨天や日照不足、強風など）な日が続きますと、各種の病害（うどんこ病、褐色腐敗病、褐紋病、すすかび病、黒枯病、菌核病、灰色かび病など）が発生してきます。

特に、果実に病斑が発生する褐色腐敗病、褐紋病、黒枯病、菌核病、灰色かび病などは、多発生すると大きな減収となりますし、他の病害も茎葉等に発生すると生育に影響し、品質の低下や収穫期間の短縮等を招き、減収します。このため、圃場を丁寧によく観察し、早期発見に努めるとともに、発生初期からの防除を徹底してください。

<各種病害の症状>

- 1 **うどんこ病**は、主に葉に発生し、表面に白色粉状のかびを生じます。症状が進むと黄褐色に変色し、多発生すると葉柄、茎等の全身に発生します。
- 2 **褐色腐敗病**は、主に果実で発病しますが、茎の地際部や葉、枝などでも発生します。果実では、はじめ淡褐色～褐色のくぼんだ病斑を形成し、多湿が続くと灰色粉状のカビを生じ、やがて軟化腐敗します。収穫後の市場で、発病した例もあります。茎の地際部が侵されると、病部がくびれて軟化腐敗し、倒伏や立枯れとなる場合があります。
- 3 **褐紋病**は、葉、茎、果実などあらゆる部分に発生しますが、果実に発生すると、褐色点状の病斑が次第に輪紋を描きながら拡大し、のちに病斑部に褐色の小粒点を多数生じます。葉では、やや明るい褐色の病斑を生じ、輪紋をもつ大型病斑に拡大して、しばしば中央部に穴があき、病斑の周囲が黄化します。登録農薬は、ありません。
- 4 **すすかび病**は、葉のみに発生します。はじめ葉裏にカビのある小斑点があらわれ、次第に色が濃くなって、灰褐色の病斑となります。
- 5 **黒枯病**は、主に葉に発生しますが、激発すると果実にも病斑を生じます。葉では、はじめ紫褐色で不正形の小さな病斑を生じ、一部は拡大して大型病斑にもなりますが、多くはそのまま経過します。果実では、水浸状の小隆起を多数生じます。
- 6 **菌核病**は、主に茎に発生しますが、果実でも発病します。茎では、水浸状の病斑を生じ、その上の茎葉がしおれます。果実では、茶褐色の水浸状病斑を生じ、腐敗します。いずれも、病斑上には白色綿毛状のカビを生じ、のちにネズミの糞状の菌核を形成します。
- 7 **灰色かび病**は、幼果の花弁から発病することが多く、主に果実で発生します。なお、葉や茎にも褐色の病斑を生じますが、これは発病した花弁が付着して発病することが多いです。

表 1 ナス定植後の生育期における各種病害の主な防除薬剤（平成 29 年 6 月 26 日現在）

薬剤名	うどんこ病	褐色腐敗病	すすかび病	黒枯病	菌核病	灰色かび病
ダコニール 1000 ※	○		○	○		○
ベルコートフロアブル	○		○	○		○
アフェットフロアブル	○		○		○	○
シグナムWDG ※※	○		○		○	○
フルピカフロアブル	○					○
ストロビーフロアブル	○		○			
ガッテン乳剤	○					
モレスタン水和剤	○					
フォリオゴールド ※	○	○	○			
プロポーズ顆粒水和剤 ※		○	○			
レーバスフロアブル		○				
ランマンフロアブル		○				
ロブラール水和剤			○	○	○	○
カンタスドライフロアブル ※※			○		○	○
ゲッター水和剤 ※※※				○	○	○
トップジンM水和剤 ※※※				○	○	○
ファンタジスタ顆粒水和剤					○	○
スミレックス水和剤					○	○
ピクシオDF					○	○

注) 表中 ※印の薬剤には、いずれも有効成分TPNを、※※印には有効成分ボスカリドを、※※※印には有効成分チオファネートメチルを含みます。有効成分の総使用回数に、十分注意してください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040